

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091600124		
法人名	有限会社 聚楽臺		
事業所名	グループホーム じゅらくだい		
所在地 (電話番号)	〒839-0862 久留米市野中町914 (電話) 0942-48-3160		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成20年11月7日	評価確定日	平成20年12月24日

【情報提供票より】(H20年10月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤15人, 非常勤5人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築	
建物構造	鉄筋ストレート葺 造り			
	3 階建ての		2 階 ~ 3 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要 (10月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	7 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひらつか内科循環器科、小坪内科・消化器科、小坪歯科、新古賀病院、聖マリア病院、はるり鍼灸整骨院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは久留米市の中心部に位置し、町並みに調和した西洋風の建物で、国道沿いで交通の便もよく、買い物や外出に便利な場所に位置している。そばには石橋文化センターや図書館、公園があり日々の散歩には最適な環境でもある。理念を「近頃のお年寄りが元気に過ごす住まい」と掲げて、運営しており、利用者とその家族の声が響くような環境作りを目標とし、職員全員で取り組んでいる。隣には内科循環器科が併設されており、必要な利用者は気軽に職員と外来受診されていて、医療についても安心できるサービスが提供されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で課題としてあげられた 権利擁護に関する制度の理解と活用 家族等への報告 職員の異動等による影響への配慮 人権教育・啓発活動 職員を育てる取り組み 災害対策 などの改善に取り組み、職員の休憩室の設置や職員の離職が減等の成果がみられる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者はサービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価を行いサービスの質向上に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>定期的に(2ヶ月に1回)運営推進会議が開催され、ホームの状況報告と共に出席者からの質問・意見・要望などを受けている。討議内容はホームの行事や職員の離職について、外部評価の結果や課題・取り組み、玄関の鍵の施錠などについても話し合わせ、そこでの意見をサービス提供に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>2ヶ月に1回「じゅらくだい新聞」が家族に送付され、生活の様子やこれからの行事も紹介されており、利用者と家族の関係作りも支援している。家族の来訪時には、利用者の状況や家族のことについて同じ目線で話を聞き、家族の要望や本音を伝えてもらうように努力している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入会し、回覧板やゴミ当番にも参加しており、「じゅらくだい新聞」も町内に配布している。外出の際には近隣の人と挨拶を交わしている。老人会や公民館での催し(新年会・忘年会・人形劇会)にもお誘いがあり参加している。ホームの行事・秋祭りなどには、いろいろな地域の団体や人々へ参加を呼びかけ、一緒に弁当を食べたりして楽しんでいる。老人会の方々からは花や野菜を届けていただいたりしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	町の中心部にあるホームで「元気に過ごす住まい」を理念とし、近くのスーパー・公園なども利用し活動的に過ごしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	散歩や買い物に便利な所であり、活動的に過ごすことができている。各利用者の生活習慣や意思が尊重され、理念に沿ったケアが提供されている。理念はホームの各所に貼られ、職員の名札の裏にも理念が書かれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板、ゴミ当番、老人会、公民館の催しものに参加している。ホームの秋祭りには、地域の人たちへも声掛けをして参加してもらい、楽しまれている。老人会の方からは、お花や野菜などを届けていただいたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より職員へ自己評価・外部評価について説明がされている。自己評価用紙が全職員に配られ、各職員が考え記入し管理者と職員全員で取り組んでいる。		各職員の自己評価を基にしたの検討会が望まれる。改善課題に対し 具体的な目標 目標達成に向けての行動内容 目標達成の時期 担当者の決定等、改善計画シートが作成されることを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で定期的開催されている。ホームの状況や行事の報告、玄関の鍵の件等話し合っている。要望や意見は次回の会議時に改善状況として報告されている。		利用者・家族へ運営推進会議の意義や役割を説明し、積極的な参加の呼びかけを行い、より一層利用者本位の運営推進会議にすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	じゅらくだい新聞を定期(2ヶ月に1回)で市役所へ持参し、活動報告を行い交流している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	権利擁護研修会へ参加し、ホーム内で職員へ報告会を行い職員全員で研修内容の共有をしている。権利擁護パンフレットをホーム内に置き、必要な家族へは説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、利用者の暮らしぶりや健康状態について報告し意見を聞いている。また、「じゅらくだい新聞」を全家族に郵送し、暮らしぶりや報告事項を伝えている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱が設置されている。ホーム内の苦情相談窓口と公的相談窓口を設置していることが、大きく玄関口に表示されている。家族会議や運営推進会議、家族の面会時でも意見・不満・苦情を言い表せるように配慮し、その意見を運営に反映できるように努力している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は職員の退職者が数名あり、人員の配置に利用者への影響がないように検討されている。職員は現在安定しており、離職を防ぐために職員の個別面接を行っている。		管理者と職員が継続的に面接を行い、気軽に相談できる良好な人間関係を作り、又、職場の人間関係にも目を配られることを期待する。
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては性・年齢を理由に排除しておらず、職員の年齢構成は、20代から50代までと幅広い。職員の休憩室も設置されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は、朝夕のミーティングやユニット会議にて話し合っているが、勉強会や研修会への参加は行われていない。契約書には虐待防止及び身体的精神的拘束を受けないことが明記されている。		虐待防止マニュアルの整備と今後の人権教育、啓発活動への取り組みを期待したい。
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業者外での研修に参加し、職員全員への報告会を行い、研修内容を共有できるシステムがある。月に3回程度の勉強会を実施している。		まずは、職員の要望などを聞き、研修計画を立て、その計画に沿って研修を行うシステムの構築を期待する。特に入職時の教育プログラムは、業務の基本となる部分なので、マニュアルを作成することが望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市グループホーム部会(月1回)へ参加し、他グループホームとの交流や情報交換を行いサービスの向上に活かしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談者へは、ホームの見学や宿泊体験を勧めている。その体験により馴染みの関係を作り、自宅での生活状況がホームでも継続できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	編み物が出来る人は利用者と一緒に編みながらゆっくり共に過ごす時間をつくっている。利用者の思い全てを受け入れ、何をしたいのかを探り、信頼関係を作りながらお互いに共に生きる関係を大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	夜はお茶を飲みながらゆっくり談話をしたり、人と人とのつながりを大切にし信頼を築きながら思いや意向の把握に努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意見や希望を聞き介護計画に反映させ、日々の職員の話し合いにて介護計画を作成している。		事例カンファレンスを開き、討議内容を記録することを期待する。利用者各人を主に担当する職員を決めてのサービス提供についても検討が望まれる。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化が見られた場合は、その都度計画の見直しを行い新たな計画を作成している。		利用者に状態変化がある時は本人・家族・関係者と話し合い、介護計画の見直しが判るように明記することが望まれる。
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	急な外泊や外出、通院などにも柔軟に対応している。併設の医院と24時間医師・看護師と連絡がとれるオンコール体制がとられ、状態変化に速やかに対応できるようにしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、本人・家族の希望により支援されている。指示や情報は記録され、家族に報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には、急変時における対応を家族に説明し書面での確認を行っている。重度化や終末期に向けての指針は作成された段階である。		これから本人・家族の希望があればホームでの看取りも出来るように検討(家族の同意・チームでの支援体制)することを期待する。
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日頃から一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーや個人情報の取り扱いについて話し合っている。声掛けや介護の場面で利用者のプライバシーに十分配慮している。個人情報が書かれた書類はシュレッダーにかけている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮し、本人の気持ちを尊重した個別性のある支援となっている。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや配膳、下膳、食器洗いなど利用者のできる力に応じて職員と一緒にしている。職員は同じ食事を食べながらさりげなく横に座り食事介助をしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日・時間帯は決まっているが、希望があればいつでも入浴できるように準備されている。今までの生活習慣に応じて入浴を楽しめるようにも配慮され、温泉へ出かけて入浴を楽しむことも実施して喜ばれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、調理、後片付け、新聞とり、日付めくり、掃除、ホーム前道のゴミ拾い、花壇の水遣りなど利用者が出来る事を職員と一緒に楽しみながら役割を担っている。ホームの畑で野菜を育てることが検討されている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員からも利用者個人へ「今日はどこへ行く?」と声掛けが見られる。その日の希望に応じて散歩や買い物等積極的な生活が出来るように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム1階の玄関が大通りに面しているため入り口は施錠している。職員は利用者が不安やストレスを感じないように話し合い、工夫している。運営推進会議でも施錠については検討された経緯がある。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルが作成され、避難時の対応・避難場所は確認出来る。今後、町内会の防災見回りの拠点として、ホーム1階の広いスペースが利用される予定である。		運営推進会議のメンバーや地域の人・消防署と協力した避難訓練を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェックし記録されている。献立は管理栄養士が作成したもので、食材は宅配サービスを利用している。食事は一人ひとりの状況に応じ、食べ易いように工夫しその人のペースに合わせた支援となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、風通しがよく自然の光が入り、季節を感じる草花や飾りつけがされている。居間には誰でも判る大きな日めくりカレンダーがあり、毎日掃除されて居心地よく過ごせるように工夫している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での環境をホームでも同じように作れるようにと家族の協力も得て、仏壇やタンス・椅子などを持参し、利用者それぞれの個性的な居室となっている。		